

石村鉄工

沖縄の農業発展へ一石

チゼル・プラウ等実機展示



石村社長

石村鉄工(石村鉄英社長、北海道上川郡美瑛町扇町)は、5月29・30日に沖縄コンベンションセンターで開催された「第3回農水産業支援技術展 沖縄」に出展。チゼル・プラウやミニ・ブレイクなどの実機を初展示した。「岩のように固い土質での耕起や赤土汚染といった沖縄独特の条件下の問題解決につながれば」と石村社長。来場者の注目を集めた。

「第3回『農水産業支援技術展』沖縄」は、沖縄県内の農業・畜産業者、漁業者、流通業者などを対象に最新の技術や設備・資材、サービスな

どを紹介する展示会。3回目を数える今回は約50小間企業が最新製品などを出展した。現在、沖縄県では高品質で安全・安心の沖縄ブランド確立に力を入れており、今回の大きな目的は、農業や水産業の基盤をなす技術、機器を紹介すると共に生産性向上に対する情報を一堂に集め



多くの農家が質問していた



テープカットに参加する石村社長(2列目中央)

をなす技術、機器を紹介すると共に生産性向上に対する情報を一堂に集めるなど地元同社への期待の高さが伺われた。展示したのは適応馬力85ps以上のチゼル・プラウ「VSIK-9」にミニ・チゼル「VSI-3」、そしてミニ・ブレイク「VK-5(同20ps)」の3機種。全てデモ機として沖縄県内の販売店に納める前に展示した。沖縄のほ場は岩のように固い、と来場した農家の言葉。雨の少ない乾燥した状態で耕起すると土の塊が地面から剥がれるように盛り上がるという。加えて赤土が海に流れサングの生態系が破壊する赤土汚染が社会問題化。そうした土壌に対して多くの農家はロータリ耕を行っているが、農家の耕作面積が増大する中、より効果的な作業方法の構築が喫緊の課題の一つとなっている。

石村鉄工は第1回目から出展。1回目と2回目はパネル展示のみだったが、農家や研究者などから高い関心を集めたこともあり、今回は実機を展示。出展企業の代表としてテープカットに参加するなど地元同社への期待の高さが伺われた。展示したのは適応馬力85ps以上のチゼル・プラウ「VSIK-9」にミニ・チゼル「VSI-3」、そしてミニ・ブレイク「VK-5(同20ps)」の3機種。全てデモ機として沖縄県内の販売店に納める前に展示した。沖縄のほ場は岩のように固い、と来場した農家の言葉。雨の少ない乾燥した状態で耕起すると土の塊が地面から剥がれるように盛り上がるという。加えて赤土が海に流れサングの生態系が破壊する赤土汚染が社会問題化。そうした土壌に対して多くの農家はロータリ耕を行っているが、農家の耕作面積が増大する中、より効果的な作業方法の構築が喫緊の課題の一つとなっている。

「ロータリを使うから固くなる。固くなるからロータリをかける。これでは悪循環」と石村社長は言い、自社のチゼル・プラウを提案する。ロータリが土壌を攪拌するのに対して、同機は簡易耕起機で、タインと呼ぶバネ鋼状爪が縦にバイブレーションしながら犁底盤を破壊していき土壌の乾燥を促進させる。「この機械ならロータリと違って、下に水が浸透していくので赤土が流れ出ることは少ない」と石村社長。作業速度も速いことから従来に比べて能率も大幅アップが期待できると自信を見せた。

「デモ機として納める販売店関係者も会場に訪れ、「この機械を入れることでロータリをかける回数が減らすことができればロータリの寿命を延長させることもできるはず。県内各地でデモを積極的にに行い、上手くいくことが実証されれば実演会などを通じて広めていきたい」と期待を述べた。その他、北海道ではハウスの中で使われるミニ・チゼルやミニ・ブレイクといった小型機も展示。これら機械もどのよ

うな効果を発揮するのしみた。〈展示機種の主な特徴〉
 ▽チゼル・プラウ VSIK-9
 ・作業幅2.5m、応トラクタ85ps、作業度8〜12km/h、作業速度5〜30km/h
 ▽ミニ・チゼル VSI-3
 ・作業幅1.5m、同25ps、同8〜10km/h、同5〜30km/h
 ▽ミニ・ブレイク VK-5
 ・作業幅1.5m、同20ps、同8〜10km/h、同5〜20cm。